

LEADER'S VOICE

リーダーズ
ボイス

コロナ禍を乗り越える

県中小企業家同友会代表理事

高野浩子さん

たかの・ひろこ 1963年生まれ。別府市出身。2007年から美装管理（別府市）社長。08年に県中小企業家同友会に入会。17年から代表理事。

7月20日は「中小企業の日」。各産業を支える中小の重要性を広く知ってもらおうと、国が2019年に定めた。県内でも企業の99%を中小・零細事業者が占め、地域経済の土台となっている。

こうした地場中小の経営者たちが自主的に集い、学び合うのが県中小企業家同友会だ。「よい会社をつくる」「よい経営者になる」「よい経営環境をつくる」ことを目標に、互いの活動報告や討論を通して理解を深め、職場に反映させることで成長につなげている。

職場での実践心掛け

1981年に70社でスタート。現在は県内6支部・計570社となり、各地で連携の輪を広げている。高野浩子代表理事(58)＝美装管理社長＝は「社員、県民、地域と一緒に成長を目指している。ともに学ぶ仲間をさらに増やしたい」と参加を呼び掛ける。

活動の柱は、支部ごとに毎月開いている例会。毎回テーマを決め、会員企業が自社での活動を報告する。失敗や悩みなども率直に語り、グループ討論で突っ込んだ意見交換をする。「経営者の道場」をうたう通り、座学で終わらせることなく、職場に持ち帰っての実践を心掛ける。

コロナ禍でも、例会をオンラインで開くなど学び合いの歩みは決して止めない。会員企業が雇用を守るために取った対策、当面の資金繰りをしのぐために活用した各種補助金など、混乱期を乗り越えるノウハウと経験の共有を進める。「厳しい状況だが、各社が『絶対に生き残るんだ』という決意でさまざまな取り組みをしている」と感じる。



県中小企業家同友会代表理事の高野浩子さん＝大分市三ヶ田町の県中小企業家同友会事務所

企業の成長につなげる

入会したのは2008年。出身大学の先輩でもある経営者から誘われたのがきっかけだった。同友会の勤めに従い、会社運営の屋台骨となる経営指針の「成分化」に取り組み、社員と共有したことで「会社の方向性をはっきりと定めることができた」。誘ってくれた経営者には今も感謝する。

手弁当で学ぶ経営者たちの向上心は強い。例えば障害者の雇用促進では、委員会を設けて検討を進め、実績を積み重ね

る。6日にオンラインであった全国組織の大会では、同委員会の委員長を務める会員が活動報告をした。

1社1社の知恵と経験を結集させることで、会員企業全体の成長につながる足掛かりを築いてきた。「将来的には会員1千社を目指したい」。高い志を持つリーダーたちのさらなる合流を待っている。

◆団体プロフィール

- ・団体名 県中小企業家同友会
- ・設立年 1981年
- ・所在地 大分市
- ・加盟企業数 570社